



ひびき

第 14 号
50. 2. 10
神戸市生田区海岸通
3丁目
共栄株式会社
ひびき会
編集人 向田正克
発行人 白井彰宏



共栄五十年の歩み

会 長 松 岡 朗



共栄株式会社の前身である共栄商会の生い立ちや草分の頃の商売について何にか書いて欲しいとの「ひゞき」からのたつての要望があったので私が今書き始めている「共栄五十年の歩み」の中から創立篇と戦前期篇の一部を綴ってお応えすることにした。共栄の創業は何分にも半世期も前のことであり当時直接関係のあった多くの方達は既に第一線を退いておられ、当時のことを聞き会はず術もなく加ふるに僅かに残っていた古い書翰類も悉く戦災で焼失して何に一つ記録らしいものも残っていないので、年代の誤りや其の外にも正確を欠く部分も多々あるうかとは思ったのですが、私のいろんな記憶を辿り稿を記した次第で、そのつもりで読んで頂ければ幸甚です。

「共栄五十年の歩み」

目次

- 一 創 立 篇
- 二 戦 前 期 篇
- 三 戦 後 期 篇
- 四 現 況

創 立 篇

鈴木商店の没落と共栄の創立

共栄商会の創業に色々繋がりがありますので私がそれ迄勤めていた神戸の鈴木商店のことについて少し記述させて頂きます。鈴木商店と云えば大正七年勃発した米騒動に米買締めの元兇だとして焼打ちを受けたことでも知られています。金子直吉総師のもと「三井、三菱を圧倒するか然らざらば彼等と

並んで天下を三分せん」との野望に燃え一介の砂糖屋から僅かの間に天下の大貿易商にのし上り神戸製鋼、帝人、豊年製油、播磨造船等々数限りなき後の超大企業をその経営下にもち大正初期から中期にかけ全盛を極めた商社であったことは聞き及びの方も多いことゝ思います。然るに大正十二年の関東大震災から引いては昭和二年の震災手形処理法案を巡りわが国経済界は大恐慌を呈し同年四月の台湾銀行、十五銀行の休業に至りそのピークに達しモラトリアム施行といふ未曾有の混乱に陥り、さしにも全盛を誇った鈴木商店をはじめ数多くの企業が没落するという惨状を呈したのでした。鈴木商店海外支店勤務だった人達は夫々直ちに内地へ引上げましたが私はニューヨーク支店で残務整理を命ぜられ後れて同年暮近く日本へ帰って参りました。然し日本の経済界は不況のどん底で仲々格好の職場も見当らず偶々私より一足先に帰国された当時の紐育支店長だった寺崎栄一郎氏が大阪で砂糖の商売を始めるが私には是非参加する様にとの誘いを受け兎に角も共同で店を開くことになり取り敢えず大阪梅田新道の太平ビル内に共栄商会の商号で机二つだけの事務所を開設したのですが、これが現在の共栄株式会社の前身共栄商会の初まりでした。その後別記大狭商店を大阪の代理取扱社とし昭和六年春事務所を神戸へ移したのですが創業以来いつも二脚だった事務機を三脚にしその一つへ座って貰ったのが社員第一号の向田現社長だったのも懐しい思い出です。

昭和十五年頃からは愈々戦争準備時代に入り厳しい統制のもとに民間企業の合同なども促進され兵庫県下の鉄屑直納店も共栄中心の兵庫鉄屑株式会社と島文を主体とした神戸鉄屑株式会社の二合同会社が県下を二分してのぎを削ったのでしたが昭和十六年中

央に軍需省直属の金属回収本部が設置され各府県には府県庁内にその支那が設けられ同時に金属回収に伴う作業面を行う金属回収工作隊が各府県に編成されるに及び前記兵庫県下の鉄屑二社もその業務を合併し兵庫金属回収株式会社を新発足することゝなつて県下の金属類は悉くこれ等の機関に依り命令回収されることゝなつたのでした。こうして切角の兵庫鉄屑株式会社も一年にして殺の存在となつたので同社の全株式を共栄にて譲り受け、事実上は共栄が株式組織に組織変えを行ったことになつたのでした。其の後共栄株式会社と社名変更して今日に至つたのであります。昭和三年ふとしたことからジャバの古鉄を輸入したのがはじまりで今や吾社も「製鉄日本」の原料供給の一翼の担手として業界に重きを為していることを思うと誠に感慨無量であります。

戦前期篇

寺崎栄一郎氏は鈴木商店の頃ジャバにも久しく勤務せられ砂糖に關しては相当なエキスパートだったので、当初の計画通り同氏の旧知ジャバの亜細亜貿易商会の協力を得て初めて砂糖の現物を少量ながら輸入し大阪の取引所の定期に繋ぐと云う仕事を試みたのです。然し定期取引など簡単にうまくゆく筈もなく一度の取引だけで断念の止むなきにいたつたので他にジャバから継続して輸入出来る物産をと亜細亜貿易に再度の協力を申し出たのですがタイミング良くかつて同社が鈴木商店を通じて神戸製鋼所へ売り込んでいた熔解用屑鉄の輸出が鈴木商店の破綻以来中断されているので共栄で復活させてはとの事だったので早速神戸製鋼所の承認を得て屑鉄五〇屯の輸入契約が成立したのでした。これが昭和三年共栄が初めて製鉄原料を手懸けた経緯です。

亜細亜貿易商会

亜細亜貿易は明治四十二年若冠十九才にてジャバに渡り明治大正、昭和と三十余年を同地に過ごされたジャバ通の第一人者大槻勝弘氏の会社で、戦争の爲め日本向輸出が全面禁止さるゝまで久敷に亘り同社扱いの屑鉄の殆んどが吾社を通じ神戸製鋼所へ納入されたのでしたが、終戦後インドネシアにての亜細亜貿易商会の再開はみられず両者の繋りも戦前だけで終つたのでした。大槻勝弘氏には久敷当社監査役を委嘱して居ました。

大狭商店

追々と古鉄の取扱いにも馴れ製鉄用屑鉄以外にも古レール、タイヤ、古鉄なども時折輸入する様になったが、これ等は何れも売却市場が大阪だったので、信頼して売却を委せられる取引先が是非必要になり、昭和四年選んだのが大阪境川にあった大狭商店であった。店主は狭間亀夫といつて当時大阪の古鉄屋でその息のかゝらぬものはないとまで云はれた古鉄業界の大御所阪口商店の出身で古鉄事情、特に上物、解体船材、伸鉄材等には精通され後には輸出品の売却の外にも大阪にての解体船屑やシーヤー屑の蒐荷や又入札参加等の場合のアドバイザーとして密接な関係が続けたのでした。昭和十二年シンガポールの沈没船「トンキン号」引揚げの際には作業総師として現地へ出向いて貰ったことも記憶に新しく色々思い出の多い人であったが、今年九月病に倒れられ痛惜に堪えない。

日本工業製作株式会社（現日工株式会社）

昭和十年頃松尾幸治商店が三井物産を背景として大量の古レール

ルを輸入し大阪市場に氾濫したことがあったが、偶々吾社がアメリカのパシフィック・スチール社から買付けの少量ながら大形レールと機関車タイヤが頂度その頃入着したので大阪にての売却が到底不可能なるを知り止むなく明石の日本工業製作所という小さなショベルメーカーへ売込んだのであったが、それが現日工株式会社と取引が成立した最初であり又、その時品物検分に見えられた若い小柄の人こそ若き日の矢野社長であったのでした。矢野氏と私はお互ひ鈴木商店の仲間でありながらそれを知ったのは昭和二十三年私が同社の取締役に就任してからのことであつたが、爾来共栄は同社の必要な伸鉄材や古銑を供給し日工からは同社発生の鉄屑を受け今日に及んでいる。

シンガポール沙加乃公司

まだ大阪に事務所のあつた昭和三四年の頃だつたと思ふが、シンガポールの沙加乃公司与云う店から突然バイナッブル街詰用の製缶鉄力屑の引会を受けたのだが鉄力屑など其の用途すら判らず神戸製鋼所で色々調べてもらった結果、大阪で只一個所大阪精錫所という電解精錫工場が使用することを知り同社と交渉の結果初めて鉄力屑の輸入を行うことになったが其後香港ものなど、合せ月間三、四〇〇屯が大阪精錫所へ納入される事になった。昭和十年私がこの大阪精錫の取締役に就任することになってからは特に接触度も深まり同社発生の電解鉄屑が月々相当量神戸製鋼所へ納められることにもなった。沙加乃公司とは彼様に鉄力屑の輸入で結ばれたのであるが其後鉄屑も合せ取扱うことになり数年にしてジャバ香港等よりの輸入量を遙かに凌駕し錫礦山屑など大量がコンスタントに積出さるゝことになったので、昭和九年には向田が

先地に出向し続いて昭和十二年よりは渡辺を派遣するまでに至ったのであるが、昭和十八年南方鉄屑輸入組合共栄隊を編成して占領後の金属処理に大挙して出かけたのを最後としてシンガポールとは今だに絶縁になった儘である。

香港・萬福洋行

昭和五・六年頃には輸入先を拡めることに狂奔し、各方面へつてを求めて引合った結果として私の香港在勤中の友人萬福洋行の大島貞雄氏が僅かばかりの試験積をして下れたのが切掛けとなり追々と月一〇〇屯程度が積出されることゝなった。其の頃萬福洋行へ一蒐荷業者として出入したと聞く曾樹屏氏が終戦後コンイック商会 (Kwong Hick Co.) 主として活躍し終には香港市場の屑鉄の大半が彼に依って取扱はるる迄に発展し吾社にとっても創業以来最大の取引先として今日に及んで居る。

上海・清水商店

上海の清水商店も同じ頃始めた取引先で月一〇〇屯位の積出しが続いたが二・三年にして清水氏が内地へ引揚げられることになったのと上海屑が質的に問題の多かつたこともあって、それ以来取扱いを中止しその儘となった。

濠洲・JHスミス

昭和十四年頃より濠洲スミス社よりの輸入が始められたが二・三年にしてこの輸入も戦争の為中断の止むなきに至った。然し終戦後間もなく取引が再開され昭和三十五年濠洲政府が自国内製鉄擁護のため鉄屑の輸出が規制される迄十余年の長きに亘り香港の

コンイックと並んで月々数千屯の輸入源であった。

以上を以て共栄創業当時の思い出の記述を終ることにするが、尚戦前期につきては、

一、安宅産業との提携

一、上海大中萃公司への万年筆材料の輸出

一、昭和八年神戸銀砂株式会社設立のこと

一、昭和十二年発足の南方鉄屑輸入統制組合の組合員としての活動

一、昭和十三年設立の日本鉄屑統制会社の指定商としての動き

一、昭和十二年シンガポールに於ける沈船トンキン号引揚げのこと

一、昭和十八年シンガポールに於ける戦争屑処理のため共栄隊派遣の経緯

など数多くの出来事が思い出されるが、目下資料蒐集中で何れ戦後期篇や現況と合せ「共栄五十年の歩み」の後編として綴り度いと思っている。

(昭和四十九年十一月記)

謹賀新年



ひびき

第 17 号

51. 2. 14

神戸市生田区海岸通
3丁目

共栄株式会社

ひびき会

編集人 島田耕作

発行人 松川光雄

新
年
の
始
め
の
一
歩
を
踏み
出
す
勇
気
を
願
ひ
ま
る
か
ら
の
一
歩
を
踏み
出
す
勇
気
を
願
ひ



共栄五十年の歩み

会長 松岡 朗

共栄商会の生立ちから草分け時代の思出や戦前期の前半の記録は己に「ひびき」昨春号に記述したので今回は引続いて戦前期の後半から戦時中へかけての思出を綴ることにした。

「共栄五十年の歩み」

目次

- 一、創 立 篇
- 一、戦 前 期 篇
- 一、戦 後 期 篇
- 一、現 況

戦 前 期 篇

安宅商会（現安宅産業株式会社）

大阪安宅商会の鉄鋼課長の茶谷順次氏が、私の友人であった関係から同社の委嘱を受け満州東支鉄道（ハルビン、長春間鉄道）払下げの古機関車の下調査のため昭和五年ハルビンへ一ヶ月余も出向いたことが、切掛けとなり爾来度々ジャバ屑輸入の信用状開設などの援助を受けたが特に別項記述の南方鉄屑輸入組合が占領外地金属類の処理を命ぜられた際に同社と協同にて共栄班を編成し

大挙してシンガポールへ出向いたことなどもあって同社とは常に密接な繋りをもち一時ながらも同社の真鍋、赤松の両氏が、吾社の取締役として名前を連ねられた事もあった。終戦後はパーヂを受けられた方や安宅を離れて独立された方などもあり会社の様相が著しく変わってしまったので戦前の関係はいつとはなしに薄れたが、茶谷氏だけは後に日本砂鉄の社長として又関西電炉カルテルの理事長として何にかとお世話になったのが、残念ながら先年病没された。

南方鉄屑輸入組合

昭和十二年日鉄川崎等大手製鉄メーカーにて輸入屑の共同購買会が発足することになり三井、三菱、浅野などで組織する米国スクラップ輸入会と、米国以外の地からの輸入屑については新しく発足した南方鉄屑輸入組合が、対応団体として指定を受け、ここに輸入屑の悉くが共同購買会によって一手買上げ配分が行はれることとなった。現日商会頭の永野重雄氏が当時日鉄の一購買課員として共同購買会へ出向して居られたのが、思ひ出される。南方鉄屑輸入組合創立にあたっては当社は発起メンバーとして参加しジャバ、香港、シンガポール、豪州の四部会に所属し特に香港とシンガポールは部会長として最後まで理事をつとめ、翌年発足した国内屑一手買上げ機関である日本鉄屑統制会社と共に共同購買会に呼応して当時の製鋼原料取扱につき重要な役割を果たしたのであった。然し日支事変から第二次大戦構えになるに伴れ外国よりの鉄屑輸入は一切杜絶し昭和十八年命を受け占領外地の金属屑処理に大挙して南洋各地へ出向いたのが最後で、終戦後メーカーのカルテル対応のため再編成さるゝまで中断の止むなきに至った

のであった。

沈没船「トンキン号」の引揚

昭和十二年シンガポール沙加乃公司よりマラッカ海峡に「トンキン号」という一万何千屯かの船が火災を起し沈没したままになっているが、干潮時には船体の一部が海面に現われる程海岸に近い現場でサルベージは比較的容易と思はれ且つ極めて安価に権利の買取りが出来るが研究の結果により一勝負してみたいと思ふがとの連絡があったので早速大阪の専門家達の意見を聞いたところ概ね案外簡単に揚るだろうとの意見が多かったので共栄沙加乃公司、狭間商店の三者協同事業としてこのサルベージを行ふことを決め、取り敢えず狭間亀夫氏を隊長として大阪北川サルベージ会社の協力による潜水夫等の一行を派遣することになった。引揚げは極めて簡単な方法で海中に潜って沈没船の破損箇所を繕ひ水の侵入を止めた上、干潮時に一斉に船中の海水を汲み出し本体を浮揚させるといふことであったが、奇跡にもこの簡単な方法で只一回の試みで浮揚に成功したのであった。日本への曳航は川崎汽船の協力で依り「オランダ丸」が曳いて下さることに決りこの上残るは引揚船が破損箇所の応急処置くらいのことと長途日本への曳航に耐えるかどうかの問題だったが、果して曳航の途中何回か曳綱が切れたり「トンキン号」と「オランダ丸」とが、危く接触しそうになるなど絶えず危険にさらされながらもこの曳航にも成功し昭和十三年八月無事大阪港へ到着した時にはまったく神仏の加護と早速関係者一同にて讃岐の琴平神社へ御礼まわりの事柄も到着の時期が悪く自力でスクラップする事も叶はず結局は有姿のままにて大阪の佐野安ドック会社に引取って貰ふことに決

まり誠に不本意な結果であったが先づ先づの成績に終わったのであった。

戦前の当社としては随分思ひ切った仕事であったと今にして考えると全く冷汗ものである。

占領外地に於ける金属屑処理

第二次世界戦争も緒戦の頃は奇襲に次ぐ奇襲で瞬く間に南方の全域にわたり日本の占領するところとなり昭和十八年命に依り占領地の金属類処理のため南方鉄屑輸入組合より南方各地へ要員を派遣することになり当社も安宅商会の協力を得て共栄班を組織し渡辺健一君以下五名がシンガポールへ乗り込むことになった。これ等の班は現地にて持場を割当てられ夫々の役割を果しつつあったのだが、如何せん其後の戦争推移にて任務半ばにして内地へ引揚げの止むなきに至ったのである。然しシンガポール地域への派遣は緒戦の頃であったのが幸して他地域よりは比較的安全に任務にもつけ引揚げの際も都合よく全員無事に帰還することが出来たのであったが、フィリピン班など非常な苦勞を重ねられた由にて特に最後に派遣になったジャバ班は往路己に輸送船「大洋丸」が潜水艦の攻撃にて撃沈され組合派遣隊の中から多くの犠牲者を出している。

上海大中萃公司

当社は元來輸入を専業としたので輸出については初期の頃は全々手を染めていなかったが只一件上河の大中萃公司与云ふ店へ万年筆製造用材料のエボナイト棒や、金ペン、中ゴムなどの輸出が三四年もの長い間続いたことを覚えてゐる。然し、どんな切掛で

相手を知ったのか又いつ如何してこの輸出がと絶えたのかも全く記憶にない。

国内屑の取扱

国内屑については昭和五年頃から大阪精錫所發生の雷解屑と狭間商店を経てシーヤー屑や解体船屑など高級の大阪市中屑が月々コンスタントに神戸製鋼所へ納入されていたので相当の実績はその頃から作っていたが、それから大分後であるが、現向田社長の提唱で一般市中屑の取扱ひも此際是非始めてはその意見に添ひ神戸駅近くの高架下に置場を作り兵庫方面の古鉄屋達を相手に細かながら仲間取引を開始したのが共栄として直接扱ひの国内ものを手懸けた初めである。爾來国内屑の取扱ひに対しても追々と経験も積み時には入札などにも参加するところ迄になったのだが、戦争が愈々熾烈になるに伴れ古金属類の取扱ひは悉く軍需省直轄の金属回収本部の命令監督のもと特別軍需回収として行はれることになり一般民間としては僅かに割当切符による極く小口の取扱ひが残されたのみであった。西脇の紡織器械取壊しや兵庫の大仏さんの破壊などが始つたのは其後である。

松井商店

兵庫の高架下にて初めて国内ものを手懸けた頃何にかと教えを乞ふたのが近くに店輔のあった松井商店であった。同店との間には特に商買とはなかったが、同店を通じて兵庫の鉄屋仲間にも紹介され又、一般取引や入札参加などに際しては色々アドバイスを受けた、恰も創業の当時大阪に於ける狭間商店の様な間柄であった。

日本鉄屑統制会社

昭和十三年日本鉄屑統制会社が設立され指定商によって集荷された国内屑は総て定められた製鋼会社へ納入され代金は統制会社より直接指定商へ支払はれる制度となり、ここに名実ともに国内屑の集荷配給の窓口が一本化されることとなった。

勿論当社は指定商として会社参与にも列し特に全国指定商連合会が発足するに及んで、その幹部役員として聊かながら業界への奉公も出来たと思っている。この統制会社は発足以来三四年の間は極めて順調な活動を続けたのであったが追々戦争が熾烈となり国家総動員法が発令されるに及んでその機能の悉くが軍需省や金屬回収本部に移り日支事変終局の頃には只関係機関の命令を業界へ通達するだけの役目となったのであった。終戦後昭和二十一年残務整理の目的にて生れた金屬興業株式会社へ一切の残務の引継をなし、この統制会社も完全にその役目を終ることとなった。

神戸銀砂株式会社

昭和八年島文工業と協同出資にて神戸銀砂株式会社を設立し兵庫苅藻島に珪石粉碎工場を持ち高級鋳物用の銀砂製造を始めたが神戸製鋼の後援にも拘らず原石入手の困難や碎石に依る微粉の処理など色々な難問題が山積し加ふるにバートナーである島文社長（現、社長の敵父）病気などが重り三年間程にて残念ながら閉鎖する事になった。島文工業とは鉄屑面ではライバル同志として常に競争の立場にあったが、半面神戸製鋼の指定問屋の大先輩として色々指導を受けたことも少からず持ちつ持たれつの間柄であるが両社の今日あるは良い意味でのライバルとして双方に意識したことが大であると思ふ。

尚外にも思ひ出は尽きないが、特に昭和十四年に神戸製鋼所のリターン屑取扱ひに端を発した神戸商業組合（集荷業者団体）とのいざこざなどは非機会を得て記述したいと思ふが、今回は一先づこれにて戦時中の記述を終ることとする。引続いて戦後期の思ひ出と共に現況も合せ綴り「共栄五十年の歩み」の完成を期したいと思っている。

目まぐるしい世の中の動きに対処し堅実にして積極細心にして常に前進に努め克く大局を保持する社長のもと皆さんあって共栄は一步一歩前進を続け今や社員百余を擁する大世帯となり益々発展の途上に立つことになったのは誠に心強い次第である。

（昭和五十年十二月 記）





新春對談





日本丸(日本)2,796トン 1930

ひびき

第 19 号
52. 2. 10

神戸市生田区海岸通
3丁目
共栄株式会社
ひびき会
編集人 島田耕作
発行人 松川光雄

目次

人間性を取りもどそう……………	取締役社長	向田 正年	1
響会々長挨拶……………	専務取締役	鹿子吉之助	2
続(第三回)共栄五十年のあゆみ……………	取締役	神田 道夫	3
響会25周年記念運動会(写真集)……………	葺合工場長	松川 光雄	5
営業所だより	会長	松岡 朗	6
フライングナンバーT.G.六一一オーバー……………			11
自 転 車……………	本社貿易部	玉川 満重	14
我が家の天使はじいちゃん子……………	東京営業所	三原 茂	16
我が家の珍客……………	兵庫営業所	山崎みさよ	17
ま る で……………	加古川工場	松田 純子	18
ロッキード事件に思う……………	兵庫営業所	青木 修一	18
私と余暇……………	大阪営業所	小椋 英正	18
現在の社会に思う……………	葺合工場	高浦 正雄	19
尚隆 初恋詩集……………	水島営業所	板谷誠太郎	20
家庭欄	葺合工場	増田 尚隆	20
我家の小鳥たち……………		松川 邦子	21
釣 り……………		安井 康高	21
結婚一ヶ月目を迎えて……………		平松久美子	22
響会だより			22
スペイン名画展鑑賞……………	本社	田中富美子	23
女子社員のつどい……………			23
卓球大会……………			24
響会慰安旅行……………	本社担当幹事	当舎 政雄	25
慶 弔 欄……………			26
昭和五十二年度響会役員……………			27
昭和五十一年度響会行事費用明細書……………			27
野球クイズ当選者発表……………			28
野球部だより……………			28
編集後記……………			裏表紙裏

続(第三回)

共栄五十年のあゆみ

会長 松岡 朗

吾社の創業から戦前期にかけての古い出来事や取引先のことなどに付いてはこれ迄二回に亘り記述したが、重ねて「ひびき」からの懇望に応え引続き戦後期、特に昭和四十年頃までの思い出を綴ることとした。勿論戦後期のことに就いては古い帳簿や書類などを逆のぼって調べれば正確に然かも順序よく書き綴ることも出来る筈だが、それには大層な時と努力を要するので取り敢えずは前二回同様特に私の記憶に残る思い出を断片的に記述したので年代その他に思い違いも多々あるかと思いますが、その意りで読んで頂きたいと思う次第です。

「共栄五十年の歩み」

目次

- 一、創業篇
- 一、戦前期篇
- 一、戦後期篇
- 一、現況

戦後期篇

現況

昭和二十年終戦直後の日本は国民としてかつて経験したことのない戦勝国の占領下での戦犯裁判、財閥解体、政治経済の主導者の追放など暗いことのみ明け暮れにて一般国民は只茫然自失自分達が生きて行くことの算段で精一杯という虚脱状態が続いたのであった。然しこの混乱も一二年後には次第に落ち着きを取り戻し没々復興への歩みが始まったのであるが其後追々と財閥解体や経済人追放も解かれ愈々本格的な復興期に入り国内に於ける産業設備や高層建築などの計画も進み又一方電機類をはじめ自動車鉄鋼などの輸出も目を追って盛大となり朝鮮動乱の前後をピークとして吾国の産業経済は異状の発展を遂げ、ついでには世界の経済大国に列する迄に至ったのであった。この間製鉄も勿論急速な発展を遂げ製鉄量の著しい増加に伴い屑鉄の需要もまた異状な数字に達し鉄屑の確保に国内蒐集や大量の輸入屑の取扱いに製鉄業界、鉄屑業界共に諸般の施策が打出されたのは当然のことであった。

一、カルテルの発足

昭和三十年高平炉メーカーに依るカルテルが発足し続いて電気炉メーカーの関東関西中部と地区別に夫々のカルテルも認可され更に特殊鋼カルテルも出揃いこれ等五つのカルテルを中央にて結ぶ鉄屑需給委員会により毎月の購入量や値段が決められ秩序ある需給計画がたてられることになった。

一、巴会八日会の結成

メーカーのカルテル発足に対応して鉄屑業者側にもその協力団体として結成されたのが関東の巴会であり関西の八日会であった。

巴会八日会は、共にカルテルの購入価格決定の際に意見を具申する業者団体として大いに活躍したのであったが同じ頃結成された蒐集業者を主体とした鉄屑連盟との摩擦が絶えず遂に昭和三十三年、前記巴会八日会鉄屑連盟の三団体に代る日本鉄問屋協会、日本鉄屑加工処理工業協会の誕生となったのである、この問屋協会と加工処理協会は昭和四十九年設立の財団法人日本鉄屑工業会であるが、業者が結ばれる迄の長期間色々の批判は受けたが、業者のメーカーと話会う只一つの機関としての役割を果たして来たのであった。

一、代納制度

従来商社筋は鉄屑については主として輸入ものを取扱ひ国内屑は余り手掛けなかったのであるがカルテル発足以来各メーカー別に指定納入業者が登録されこの登録を受けた業者以外の納入は許されないことになったのでメーカーは必要量確保の為に又商社の全融力を利用する意味にも比較的不安定な業者よりの買付よりも安心して必要量の得易い商社筋よりの買付が次第に多くなりこの為直接蒐集力のない商社は当然強力な代納者を傘下に結集する必要が起り代納者も又不況時の信用不安を逃れる手段としても又納入先もある程度選ぶ事も可能であり更に納品後直に代金の支払も受けられ時には前金を受けることさえ可能の場合もあるので金融の上からも大なる魅力で今や相当強力な専業者と雖も取扱ひの幾分は代納に廻すのが常識になりつつあり、この制度は今後も益々盛んになる傾向にある。一方輸入屑に対しては米国よりの大量輸入が始まり買付けの方法も従来とは異なり商社よりの引合に對し各カルテルが直接米国輸出業者と契約を結び輸入の実務のみを

商社に委託する制度が採られることとなり、委任を受けた商社は信用状開設の手續から本船入着の際の荷揚げの実務一切に当るのであるが時には一隻の本船積が三四ヶ所にも分割納入される様な場合も起り可成り面倒ではあったが何分にも扱い手数料の噸四百円が魅力で常に割当て獲得に商社は狂奔したのである。こうした大量の入荷の為時には四五隻もの本船が同時に入着の場合もあり船舶料の問題がステベや乙仲との間に常に争われこれ等運輸業者との話合いの機関として二水会が発足したのもこの頃であった。

この経済界の激動の三十年の間に業界の指導層としての吾社が前述数々の業者団体の推進役を勤めたのは勿論であり社内的にも時機に応じた色々の施策が講ぜられたのは当然である。

一、資本金

兵庫鉄屑株式会社当時十九万円であった資本金が昭和二十三年より七回に及ぶ増資にて昭和四十二年には四千万円になり今日に及んでいる。

一、本社及兵庫営業所

戦災にて本社事務所を失ったので終戦直後一時の溜場として使用させて頂いた兵庫西代の船田氏宅よりいち早く兵庫笠松通りに急造した狭いながらも置場もある新事務所に移り兎にも角にも営業を開始し戦後の第一歩を踏み出したのであった。この事務所は昭和二十六年本社を現在の生田区海岸ビル内に移してからも尚兵庫営業所として残り昭和四十年の荻藻島営業所へ移転する迄の二十年間の長きに亘り国内屑営業の本拠として思い出の深い事務所である。

あった。新設の荻藻島兵庫営業所は近代的な屑鉄処理加工の数々の設備を誇る吾社活動の原動力となっている。

一、葺合工場

換地のことなど色々難問題もあったが、昭和二十五年当時としては未だ珍しかった鉄屑の電解精錬設備を持った鉄屑処理工場として開設、数々の功績を挙げたが後年川鉄本社建造の機会に現在の吾妻通りの新工場に移転し今日に及んでいる。

一、大阪工場と営業所

昭和二十五年大阪市佃に大阪営業所を新設しプレス機や銑割機などを備え主として尼崎方面の鉄屑蒐集に活躍している。

一、東京営業所

昭和三十三年関東方面へ業務拡張の目的にて東京営業所を開設。

一、水島工場

川崎製鉄の主力工場の水島移転に対処して昭和四十三年、四十六年の二回に亘り倉敷市に第一、第二の工場を新設し、川鉄と緊密な連絡を保ちつつ岡山、広島方面の屑鉄蒐集加工に重要な役割を果たしている。

一、加古川工場及姫路営業所

昭和四十三年加古川に集積場を設け更に四十五年姫路連絡所を新設し専らメーカーとの連絡や播磨地区を中心に姫路方面の鉄屑蒐集とその加工処理に当たっている。

国内屑取扱いの思い出

一、三菱電機及三菱造船

終戦直後の兵庫営業所開設の頃三菱電機神戸工場と密接な取引関係に入り神戸、伊丹の両工場の排出屑の悉くを吾社にて取扱ふこととなり更に後年三菱造船とも取引関係を持つこととなり一時は兵庫営業所内に三菱係を置いて迄両三菱との関係を深めることを勉め現在でも尚重要な取引先として取引関係を続けている。

一、青森大湊へ進出

昭和二十六、七年頃青森県の大湊海軍要地に相当量のレールがあり外にも海軍要地跡に戦災屑も大量にあり更に一般屑も八戸などよりコンスタントに求められることにて社員を一年余も現地に滞在させた思い出がある。結果は甚だ思わしくなく直に引揚げさせたのを記憶するが当時の吾社としては随分思ひ切った計画であった。当時現地へ出向いた原田、亀山の両氏も健在なので機を得て当時の思い出を語り合えたらと思っている。

輸入屑鉄取扱いの思い出

一、米 国 屑

米屑がカルテルと米国輸出商との直接契約となり商社をその輸入手続だけを代行する制度になったことは前述の通りであるが、吾社も川崎製鉄の推薦に依りカルテルの指定取扱商社の登録を受け毎月幾何かの割当てを得て主として「ヒューゴ、ニュー社」積出の川鉄納めのものを取扱うこととなった。かくて吾社も他の大商社に列して輸入代行を続けたのであった。

一、ニューカレドニア屑

ニューカレドニアは頗る辺鄙な上にニッケル礦の外輸出特産物もなく加ふるに港設備も極めて原始的で船会社の配船も少くニッケル礦の積取りも支障勝ちと聞いていたが突然神戸のパチソン船会社よりニューカレドニアヘニッケル礦積取りに配船するが船腹の余りに現地の屑鉄五〇〇噸積込めば好都合だがこの屑鉄を引受けて下されぬかとの引合を受け早速川鉄へ売込みの上この引合いに応ずることになった。然し何分にも初めてのことに本船到着迄色々案ぜられたが結果を予想外に品質も先、目欠も少く無事納入を終ることを得たのは大成功であった。ニューカレドニア屑に對しては其後も度々引合したがこの一回にて後続の機会は未だにない。

一、香港屑 コンイック社

戦後香港屑の輸入が再開されるやコンイック社と相呼応して大量がコンスタントに輸入されることになった。当時香港にては船舶の解体が非常に盛んで古金属類の出廻りがよく大量の非鉄屑や鉄屑が日本向け積出されることとなり吾社にとつても最大の輸入源となつたのである。其後両サイドの事情も変り為替関係や米屑との比価のこともあり一時の様な大量の引合はないが尚コンスタントな輸入が続いている。次に吾が方の輸出として九龍ドック向の厚板や市中向けの薄鉄板なども相当量積出されたこともあり輸出と共に当社にとっては最大の取引先であることは今も変りない。

一、濠州屑 エチジー、スミス社

濠州エチジー、スミス社よりの輸入が復活して戦前通り相当量の輸入が続いたが昭和三十五年濠州政府の自国製鉄擁護の為日本向屑鉄の輸出が規制されるに及んで長年に亘る取引関係の中絶の止むなきに至つた。

一、非鉄金属屑の輸入

昭和三十年頃神戸商工会議所よりの紹介にて倫敦の輸出商社を通じて非鉄金属屑の輸入を開始したが相場の変動の激しい商品であることやこの取引が引合は倫敦と行ひ積出しはアフリカ各地と云う所謂三角取引にて品質に対する保証が得られず絶えず品質鑑定をめぐりトラブルを起した事などに嫌氣して二、三年にしてこの取引は中止のこととした。

一、ボロ屑及雑貨類の輸出

欧州向けボロ屑や東南アジア、アフリカ向雑貨の輸出を引続いて行つたが国内デイラーや製造工場が何れも小規模のものが殆んどにて頗る不安定だった事や雑貨輸出の手続が非常に煩雑で輸出係が専門にかかり切る必要あることなどを考え以来鉄類以外の輸出は手控えることとした。

以上戦後の混乱時代から朝鮮動乱を挟んでの産業經濟の高度発展時代を経て近年の石油問題から始まつた世界的なインフレ傾向に物価高長期不況と実に目まぐるしき三十年で業界の移り変りや其れに伴ふ数々の思出は枚挙に暇ないが戦後篇の後半特に営業所や工場の活動の様子は現況として現在第一線で活躍中の諸君に補足して頂くこととして、この「共栄五十年の歩み」を一先終ることとする。

(昭和五十一年十一月記)

日本鉄屑統制会社

昭和十三年日本鉄屑統制会社が設立され指定商によって集荷された国内屑は総て定められた製鋼会社へ納入され代金は統制会社より直接指定商へ支払はれる制度となり、ここに名実ともに国内屑の集荷配給の窓口が一本化されることとなった。

勿論当社は指定商として会社参与にも列し特に全国指定商連合会が発足するに及んで、その幹部役員として聊かながら業界への奉公も出来たと思っている。この統制会社は発足以来三四年の間は極めて順調な活動を続けたのであったが追々戦争が熾烈となり国家総動員法が発令されるに及んでその機能の悉くが軍需省や金屬回収本部に移り日支事変終局の頃には只関係機関の命令を業界へ通達するだけの役目となったのであった。終戦後昭和二十一年残務整理の目的にて生れた金屬興業株式会社へ一切の残務の引継をなし、この統制会社も完全にその役目を終ることとなった。

神戸銀砂株式会社

昭和八年島文工業と協同出資にて神戸銀砂株式会社を設立し兵庫苧藻島に珪石粉碎工場を持ち高級鋳物用の銀砂製造を始めたが神戸製鋼の後援にも拘らず原石入手の困難や碎石に依る微粉の処理など色々な難問題が山積し加ふるにパートナーである島文社長（現、社長の敵父）病気などが重り三年間程にて残念ながら閉鎖する事になった。島文工業とは鉄屑面ではライバル同志として常に競争の立場にあったが、半面神戸製鋼の指定問屋の大先輩として色々指導を受けたことも少からず持ちつ持たれつの間柄であるが両社の今日あるは良い意味でのライバルとして双方に意識したことが大であると思ふ。

尚外にも思ひ出は尽きないが、特に昭和十四年に神戸製鋼所のリターン屑取扱ひに端を発した神戸商業組合（集荷業者団体）とのいざこざなどは非機会を得て記述したいと思ふが、今回は一先づこれにて戦時中の記述を終ることとする。引続いて戦後期の思ひ出と共に現況も合せ綴り「共栄五十年の歩み」の完成を期したいと思っている。

目まぐるしい世の中の動きに対処し堅実にして積極細心にして常に前進に努め克く大局を保持する社長のもと皆さんあって共栄は一步一步前進を続け今や社員百余を擁する大世帯となり益々発展の途上に立つことになったのは誠に心強い次第である。

（昭和五十年十二月 記）





新春對談

